

**褐斑病が広域で発生しています！
散布間隔があかないよう、適期防除を実施しましょう！**

1 作物名 りんご

2 発生現況

- (1) 6月中旬の巡回調査の結果、新梢における発生地点率は平年より高かった。過去10か年と比較しても、最も高かった。(図1)
- (2) 新梢における発病葉率も平年より高かった。過去10か年と比較すると、令和5年度に次いで高くなった。(図2)
- (3) 発病の進んだほ場では、褐斑病による落葉がみられている。
- (4) 現地情報でも、県内の広い地域で褐斑病の発生が確認されている。

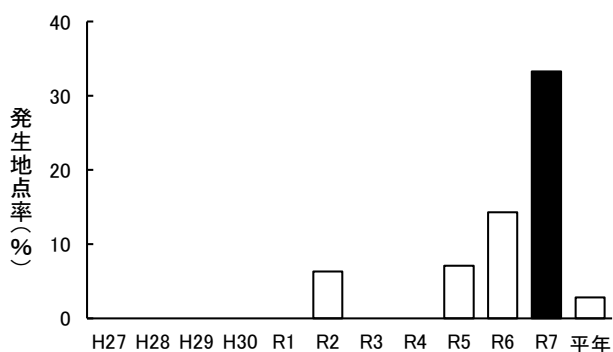


図1 新梢葉における褐斑病の発生地点率
(病害虫防除所6月中旬調査 平年:10か年平均)

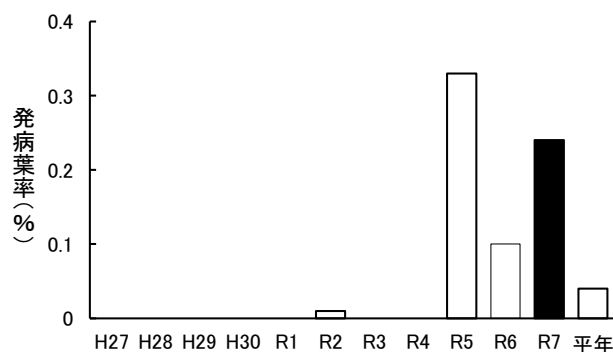


図2 新梢葉における褐斑病の発病葉率
(病害虫防除所6月中旬調査 平年:10か年平均)



写真 褐斑病の発病葉

3 防除のポイント

- (1) 褐斑病は、平均気温20～25℃で多湿条件が続いた場合に急増する傾向がある。向こう1か月の降水量はほぼ平年並の予報だが、梅雨時期と重なることから今後の発生に注意し、多発時は追加防除を検討する。
- (2) 発病後約1週間から落葉が始まり、数回にわたって落葉する。落葉が一旦落ち着くと発病が治まったと誤認しやすい。また、6月以降は生理的又は一部農薬の薬害による黄変落葉が基部葉を中心にみられるが、この症状も褐斑病による落葉と誤認しやすい。
- (3) 薬剤散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を前倒して降雨前に防除する。また、降雨が続く場合は、散布間隔があかないよう晴れ間をぬって防除を実施する。
- (4) 発病した徒長枝や不要な枝は取り除き、十分量の薬液をむらなく散布する。
- (5) スピードスプレーヤーの防除では低速による全列走行とし、薬液のかかりにくい部分は病害虫の発生源になりやすいことから、補完散布する。
- (6) DMI 剤(FRAC コード:3)、QoI 剤(FRAC コード:11)及びSDHI 剤(FRAC コード:7)並びにこれらの混合剤は、耐性菌対策のため、それぞれ年2回以内の使用とし、連用しない。
- (7) 果樹の農薬使用回数は、前作の収穫後からのカウントになるので注意する。

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ② 土壌くん蒸剤を使用した後の適切な管理をしましょう
- ③ 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
- ④ 農薬の保管管理を徹底しましょう



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail: byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム